

大学入学共通テスト試行調査 2018.11 数学Ⅱ・B

全体概要

制限時間	60分	配点	100点
大問数	4大問（第1, 2問：必答問題 第3～5問：選択問題）		
出題分野	数学Ⅱ・B全範囲		
難易度	※対現行センター試験 やや難		
解答形式	マーク式		
主な特徴	※対現行センター試験 統計分野が第3問で出題		

全体出題傾向

◆大量の文章を読む出題

『日常生活における数学』や『数学について話している生徒同士』にまつわる出題があり、必然的に問題文が長くなっている。考えて解く以前に、問題の主題を捉えるまでに時間を必要とする。ただし、数学Ⅰ・Aよりは文章が少なく、現行のセンター試験に近い。問われている内容は、現行のセンター試験に比べて本質的な理解がないと解けない問題も多く見られる。総合的に60分という時間は非常に短く、それも含めて難易度が高い。第3問に統計分野が来ているのは選択問題とはいえ、現行のセンター試験との大きな違い。

対策

◆本質的理解と長文問題への慣れ

数学的な部分で問われていることは、至って基本的であるが、現行のセンター試験よりやや本質的なところまで突っ込んできている印象。理解していない丸暗記学習は適さない。やや長めの文章問題や、会話文問題にはあらかじめ慣れておきたい。また、複数の解法を知っておかないといけないう出題も予想される。統計分野が選択の主流になってくる可能性もあるので、数学Ⅰ・Aのデータの分析とあわせて勉強しておくといよい。

大問別コメント

第1問

[1]は三角関数の単位円周上における考察問題。基本的。

[2]は微積分の問題。こちらも基本的。ここまでは現行のセンター試験レベルと変わらず、むしろ解きやすい。

[3]の対数関数の問題は『対数ものさし』という設定をその場で理解しないとイケない。丸暗記学習だとこれはつらい。

第2問

[1]は図形と方程式の問題。線形計画法の問題ではあるが、日常生活と絡めてきているので、長い文章を読んで正しく理解する必要がある。

[2]も図形と方程式から軌跡の問題。軌跡の問題としてはシンプル。軌跡が苦手でない限り解ける。最後にオリピックの五輪が出てくるのが面白い。

第3問

現行のセンター試験では第5問にて出題されていた分野。『統計的思考』を今後問うていきたいという作成側の気持ちが伺える。大学生の読書時間にまつわる問題で、こちらも日常生活との絡みがある。

第4問

数列の漸化式を解く問題。漸化式自体は非常に基本的なもので、解くだけなら難しくない。ただ、太郎さんと花子さんの会話形式になっており、漸化式を丸暗記で解いていたとしたら、空欄をうめることができない。

第5問

ベクトルの問題。写真が登場したり、複数の方針で問題を解いていくという、現行のセンター試験ではありえない問題。別解まで要求してくるのは非常に難易度が高い。ベクトルの本質的理解が要求されている。